３２．Ｅ－０４

医療事務系学生における緩和ケアの認知度調査

診療情報管理士学科

【はじめに】

1967 年，イギリスの医師であるシスリー・ソンダースは，セント・クリストファー・ホスピスを建設し，緩和ケアの世界的な広がりの先駆けとなった．緩和ケアは，このホスピスの考え方を引き継いで提唱された考え方であり，生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して，身体的・心理社会的問題に的確な処置を行うことで，苦しみを和らげ，QOL を改善するアプローチを目的としている．そして 1990 年には WHO がその概念を定式化した．日本では初めに 1981 年に浜松市聖隷三方原病院に緩和ケア病棟が設立された．

現在日本は超高齢社会を迎え，緩和ケアを受ける人の割合が増えている．緩和ケアを実施するか否かは，本人・家族が決める問題であるため，緩和ケアの詳細を知っていなければ決めることができない．しかし，内閣府やホスピス財団のアンケート調査においては，緩和ケアの認知度は低いということが報告されている．

そこで，本研究では，某医療総合専門学校の診療情報管理士学科の学生を対象に緩和ケアの認知度についてのアンケート調査を行い，今後の緩和ケアに対する認知度を深めるための課題と指針について検討することを目的とした．

【対象および方法】

某医療総合専門学校の診療情報管理士学科に在籍する学生(1 年～3 年生の計 82 人)に対し，緩和ケアについてのアンケート調査を実施し，学生の緩和ケアに対する認知度を調査した．無記名とし，個人が特定されないよう配慮した．

【結果】

調査の結果，「Q1：あなたは『緩和ケア』という言葉を知っていますか」という問いでは，92.7%が「はい」という高い結果であった．「Q2：あなたは『緩和ケア』という言葉をどこで聞きましたか」という問いは，「授業」が 74.5%，「SNS」が 14.9%，「新聞や雑誌」が 4.3%，「家族や知人から」が 3.2%，「覚えていない」が 3.2%になった．「Q3：『緩和ケア』とはどのような内容か知っていますか」という問いでは，「いいえ」が 52.6%であり，内容を知らない人が多い結果となった．「Q4：『緩和ケア』の対象となるのは，どんな人だと思いますか」という問いでは，「患者」が 26.3%，「家族」が 2.6%，「患者と家族の両方」が 61.8%，「わからない」が 9.2%となった．

【考察】

ホスピス財団が行ったアンケート調査では「緩和ケア」という言葉を聞いたことがある人は 77.0%，本アンケートでは 92.7%であり，一般人のアンケートよりも「緩和ケア」という言葉を知っている人は多かった．これは，学生は緩和ケアについて学習しており，また，緩和ケアという言葉がインターネットの普及などにより 10 年前よりも広がったということが要因であると考えられる．

しかし，緩和ケアの定義について理解していた人は，ホスピス財団のアンケート結果では 6.6%，本研究のアンケート結果でも 31.6%であり，正確に答えられた人は少なかった．これについては，講義では学んではいるが，学生達にはそれほど緩和ケアとはどのような内容なのかが記憶に残っておらず，名称のみ知っているという結果に繋がったのではないかと考えられた．

【まとめ】

今回の結果，緩和ケアという言葉は知っているが，定義については，正確に知られていないという結果になった．今後，超高齢社会が進んでいく中，癌などの治療が困難な病気になる人が増えてくるため，緩和ケアの必要度は増していくであろう．成人になるまでに認知しておく必要があり，学校教育の中で認知していく方策を考えていかなければならない．

【文献】

1) 社会福祉士養成講座編集委員会：高齢者に対する支援と介護保険制度．中央法規．東京，2016，428-439.
2) 「ホスピス」「緩和ケア」を知っている人の割合（internet）：https://www.hospat. org/research-204. html
3) 緩和ｹｱ WEB ｸｲｽﾞ（internet）：http://www.mottomijikani.com/quiz.html